

道の駅津山  
もくもくランド  
復興活性化構想策定  
(グランドデザイン策定)  
業務報告書



## はじめに

道の駅津山もくもくランドは、令和元年東日本台風による豪雨災害の被災により、道の駅施設としての機能に甚大な被害を受け、復興活性化構想の再構築が急務となっている。現在の津山町では、拠点施設の復興計画の再整備に加え、高齢化問題、人口減少や交流人口の減少等の課題を抱えている。そのような中で、道の駅施設は、地域住民の拠り所としての情報の授受や商品の購入、木工製品の販売拠点など、貴重な生活基盤の場としても重要であるとして市が位置付けている。

一方、登米市は豊富な森林資源を備えており、SDGsの視点から、環境にやさしい政策を掲げ森林(木材)との共存をうたっており、木工産業の拠点である津山地域は環境配慮の拠点として将来地域の核となるポテンシャルを十分に有している。

登米市では、自然資源活用を主眼として取り組んできた道の駅津山もくもくランド施設を、災害復興の視点による再構築と、将来において「地域資源を活かした交流拠点の中心」として、再整備することを重要施策として位置付けた。

本委託研究は、持続的な地域の交流拠点の再構築に向けた地盤問題や、災害・防災対応を検討しつつ、地域資源の見直し、森林資源を活かした木育教育、木工産業などを柱に、登米市の地元資源を活用し、資源と共存した地域活性を図ることを主課題としている。有形・無形の地域の特徴を活かした「自律的で持続的な地域の創生」を目的に、地域資源(自然資源・人的資源)の見直しを住民や行政を交えた形式で、セミナー、ワークショップ、アンケート等の調査等を行い将来における総合的な事業計画の策定を目指すものである。

# グランドデザインの位置づけと目標

1.

施設をとりまく5つの状況変化

—台風被害・三陸道・後継者・コロナ禍・SDGs—

道の駅津山もくもくランドは、「はじめに」でもふれているが、大きく5つの状況変化によって、今後のあるべき姿が問われている。その内容を以下に示したが、本策定業務は、その諸課題をいかに解決するかが問われている。



## 台風被害

令和元年東日本台風による豪雨災害の被災により、道の駅施設としての機能に甚大な被害を受け、復興活性化構想の再構築が急務



## 三陸沿岸道路

東日本大震災以前は南三陸に向かう観光客の滞在休息先として集客、三陸道の延伸で交通量の減少による集客力の低下に伴う売上高の低下



## 後継者

津山町の高齢化問題、人口減少や交流人口の減少等の課題、木工職人の平均年齢の高齢化（平均年齢70歳）と減少（組合所属7人）



## 新型コロナウイルス 感染拡大

新型コロナウイルス感染拡大により、国内の旅行者数と消費額ともに減少、観光業界に甚大な影響が及ぶ入込客数と売上額の減少



## SDGs

登米市は豊富な森林資源を備え、SDGsの視点から環境にやさしい政策を掲げ森林（木材）との共存をうたう木工産業の拠点である津山町はSDGsを配慮した新たな施策の立案が急務

2.

グランドデザインの目標

道の駅津山もくもくランドは、登米市の森林資源を土台に持続可能なくらしの拠点として、「つくり手」から「つかい手」まで、木を通じて得られる豊かな価値を届け、地域と共にあることが目標である。

そのため、3つのビジョン、5つのプロジェクト、7つのアクションを通じ、森林・林業の資源の育成、「つくり手（ものつくり）」から「つかい手（消費者や利用者）」へ（川上から川下へ）、自然からの豊かさを共有することで生まれる喜びや学びを通じ、地域を結び、多くの人との交流、喜び、発見と発信の場所であることを目指す。

# 拠点施設の現状と課題

ハード面

1.

## 拠点施設の基盤調査

本拠点の各施設の古いものでは、1980年代後半に建てられ既に30数年を経ている。開設当初は、森林の町に相応しい木質の豊かな建物が背景の山々に溶け込む姿が、今でも印象的である。

今回の各施設の建物調査を実施する目的としては、現存する建物の利活用の在り方を判断するためにも必要とのことから実施したものであり、以下にその内容を示す。

エリア内の施設以外の外部空間に関して

は、特に農村公園エリアにおいては現在建物の嵩上げ工事中ということもあり、来場者が使用することはできない状態である。大型遊具周りにおいては子ども連れの家族単位による来訪者が土日や祝日になると多く、遊具の老朽化、メンテナンスの課題がある。

各施設における共通問題としては、建物周辺の地盤沈下が目に付き、且つ木製の開口部や基礎回りの破損が多くみられるのが現状である。

## もくもくランド施設配置・ 全体計画上の課題と対策



[ 全体計画 ]

### 課題

- 全体を繋ぐ拠り所になるものが無い。
- 各施設・交流広場・農村公園・駐車場の繋がりが希薄で利用者の視点からすると分かりづらい。
- 農村広園が生かされていない。

### 対策

- 全体を繋ぐ「もくもくプラットホーム」の設置。
- 大型遊具エリアの拡充ともくもくハウスへのアクセス確保。動物と一緒に遊べるエリアを新設。

[ 各施設の連携 ]

### 課題

- 物産館及び高齢者加工活動施設は駐車場からの視認性に欠けていて、かつ駐車場から遠い位置にあるためアクセスが悪い。
- トイレの位置が分かりづらく各施設からのアクセスも悪く防犯上の問題もある。
- 駐車場からもくもくハウスへのアクセスが端部の2か所の橋しかなくアクセスしにくい。
- 各施設の相互の繋がりに欠けている。
- 交流広場への駐車場及び各施設からのアクセスが悪い。

### 対策

- 樹木を剪定し見通しを確保すると同時にイベント広場の周辺に駐車スペースと歩道を設置する。
- 新たなトイレをわかりやすい位置に設置しこのトイレの機能転換を図る。
- 大型遊具エリアにユニバーサルなトイレを新設。
- もくもくハウス中央部に新たなアクセスしやすい橋を架構する。
- 全体を繋ぐ新たなプラットホームの設置に合わせて相互を繋ぐ施設を計画する。
- 各施設からアクセスしやすい通路を設置し、駐車場の位置を再検討。視認性を確保するための樹木の剪定。



施設名：高齢者加工活動施設

開設年月（築年）：1988年7月（34年）

構造：木造 平屋建て

**課題（老朽度合）**

外部：外壁及び柱の部分的な腐朽、塗装の劣化、屋根材は全面劣化、コーキングの劣化、木製サッシ枠の腐朽、出入り口の段差解消及び建物周辺の地盤沈下

内部：壁・床・天井の仕上げ材の一部劣化、塗装の劣化、トイレの内装・配管・衛生機器を含めた全面的な劣化、空調設備機能不全

**対策**

外部：外壁及び柱の腐朽部分の取りえ補修及び塗装、屋根材の葺き替え、コーキングの更新、木製サッシの補修塗装、出入り口の段差解消のスロープ設置

内部：壁・床・天井の補修及び塗装、トイレの内装・配管・衛生機器を含めた全面改修、空調設備の更新

継続使用可否：可



施設名：間伐材流通合理化センター及び  
食品加工普及施設

開設年月（築年）：1988年7月（34年）

構造：木造 平屋建て

**課題（老朽度合）**

外部：外壁及び柱の部分的な腐朽、塗装の劣化、屋根材は全面劣化、コーキングの劣化、木製サッシ枠の腐朽、出入り口の段差解消及び建物周辺の地盤沈下

内部：壁・床・天井の仕上げ材の一部劣化、塗装の劣化、トイレの全面的（仕上げ、衛生機器）な劣化

**対策**

外部：外壁及び柱の腐朽部分の取り換え補修及び塗装、屋根材の葺き替え、コーキングの更新、木製サッシの補修塗装、出入り口段差の解消のスロープ設置

内部：壁・床・天井の補修及び塗装  
トイレの全面改修

継続使用可否：可



施設名：郷土文化保存伝習館

開設年月（築年）：1990年3月（31年）

構造：木造 平屋建て

**課題（老朽度合）**

外部：屋根及び外壁の一部劣化、地盤沈下

内部：壁・床・天井の仕上げ材の一部劣化、トイレの配管衛生機器の劣化

**対策**

外部：屋根、外壁の部分補修、スロープの設置

内部：内装部分補修、トイレ全面補修

継続使用可否：可



施設名：外部トイレ

開設年月（築年）：1988年7月（33年）

構造：RC造 平屋建て

**課題（老朽度合）**

外部：屋根及び外壁の一部劣化

内部：床・トイレブースの劣化、男女トイレの隔壁が無い、衛生機器の劣化

**対策**

外部：屋根、壁の部分補修

内部：床及びトイレブースの更新 隔壁の設置、衛生機器の更新

継続使用可否：可



施設名：木工品販売施設・野菜  
販売施設・情報センター

開設年月（築年）：2003年10月（19年）

構造：木造 平屋建て

**課題（老朽度合）**

今年度高上げ・内装・電気・機械設備の改修中

外部：入口と橋とのレベル差解消

内部：公園との繋がりが希薄

橋（2か所）の構造鉄部の腐食度合いが大きい

**対策**

外部：階段、デッキの追加

内部：公園との連続性を考慮した一部平面の変更

橋：構造鉄部の補強及び補修の設置、衛生機器の更新

継続使用可否：可

2.

拠点施設の基盤調査

道の駅津山もくもくランドのソフト面の基盤調査として、運営管理者への聞き取り調査（運営管理・情報基盤整備・防犯防災に関する現状と課題）、道の駅津山

もくもくランド利用者と津山地域の小中学校への聞き取り調査（木工や木育・施設や拠点としての現状とニーズなど）の結果を以下に示す。

運営管理 ・ 情報基盤整備 ・ 防災防犯の現状と課題

運営管理

現状と課題

- 高齢化と人材不足⇒効率が悪い、不安や不満もありも増加、施設や敷地環境の維持管理困難。
- 目的目標や方向性の違い⇒ランドとしての統合・統一性が捉えにくい。
- 台風被害やコロナ禍、三陸道延伸などの影響により入込客と売上の減少。  
※コロナ禍・仮店舗営業でスペースも限られ、イベント開催などは行えていないが、2021年は「おかえりモネ」の影響で集客があり、注文や問い合わせ、ホームページなどへのアクセスは増加している。

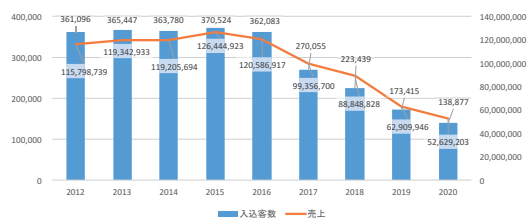


図1 道の駅津山もくもくランドの入込客数と売上

情報基盤整備

現状と課題

- 情報基盤  
IT面においては、情報の基盤となる、業務システムや情報システム、インターネット管理、アプリケーションなどの適正な管理の面と、ニーズに合わせながら紙面の保管とITとの連携など、リスクマネジメントを行った運用が課題である。  
DXへの移行、ウィルス対策、データの管理（災害時の顧客データなど）、担当者と管理者の明確化、紙面との連動、などが全体的な情報インフラでは課題である。
- WEBサイト  
道の駅として情報提供する「道の駅津山もくもくランド」、木工品販売機能として情報提供する「クラフトショップもくもくハウス」の2つWEBサイトがある。  
サイト内の情報が混在している点があり最新情報が分かりにくい、施設や店舗の説明が少なく「もくもくハウス」の役割もわかりにくいなどの課題がある。  
施設全体のマネジメントとブランディングを念頭に、施設のオープンに合わせた刷新が望ましい。



防災・防犯

現状と課題

- 遊具の老朽化、敷地内段差⇒怪我の保証、保険加入
- 備品盗難、不審者侵入、雑木や建物の死角、工事現場灰皿から煙、捨て猫など  
⇒防犯カメラの屋内外への設置 24時間対応
- 災害時等への食料含む備蓄品の確保
- 緊急時二次避難 周辺施設との調整や仕組み



## 回答者の居住地

主な地域	区市町村名
登米市 16名	津山 7名(横山 5名・柳津 2名)・登米 2名・石越 1名・米山 1名・中田 1名・迫 4名
登米市以外 宮城県内 56名	仙台市 20名・石巻市 13名・南三陸町 5名・七ヶ浜町 3名・名取市 4名・大崎市 2名 栗原市 2名・気仙沼市 2名・女川町 1名・涌谷町 1名・多賀城市 1名・柴田町 1名・白石市 1名
宮城県外 8名	山形 2名・岩手 1名・千葉 1名・東京 1名・神奈川 1名・長野 1名・愛知 1名
その他 2名	県内 1名・実家がこの辺 1名

## 道の駅津山もくもくランド利用者と小中学校への聞き取り調査からの現状と課題

### 現 状

### 課 題

#### 木工や木育



木工品：「木のぬくもりがいい」「欲しい」「使ってみたい」「丈夫で長持ち」「贈答用として喜ばれる」「お薦めの商品がある」「自慢の品を家に持つ」「値段が高い」「矢羽を知らない」「どう使うのか」

木育：「子どもが使うか試したい」「木の遊具やおもちゃで遊びたい」「子育て環境には必要と思う」「使用年齢が限定される」「工作キッドが欲しい」「制作工程の見学や体験ができない」

⇒以前は木工教室、室内に木工品で遊びを体験する場所があった。現在も小中学校の木工品制作や道の駅見学など授業が行われている。一部の授業で地元木材を使用していない。

●矢羽集成材や木工商品の製造過程が見えず、商品の価値が伝わらない。

●商品提案や体験の場がなく、木に触れる機会や体験のニーズがある。

●小中学校では農業林業や道の駅見学、木工体験授業などあるが、木質資源の川上から川下までの流れが見えにくい。

#### 拠点の役割



通常利用：「目的地の途中で立ち寄り」「食堂産直があってありがたい」「木工品が目当て」「子どもを遊ばせるために来る」「食料品を買う」「商品の種類が少ない」「車中必要なものや日用品を置いてほしい」「屋外に木陰がない」「滞在するところがない」「若者や子ども向けのメニューが欲しい」「ファストフードが欲しい」「名物がわからない」

イベント：「以前の事業（木工教室、山野草展、室内遊び場、ピアノ演奏など）の再開を望む」「木工体験がしたい」「集客イベントしてほしい」

●ドライブやツーリングの立ち寄り利用としての品揃えや情報サービスへのニーズがある。

●もくもくランドを目的地としてきた方の滞在や交流スペース、イベント開催へのニーズがある。

●近隣住民のコミュニティ形成の拠点としてのニーズがある。

#### 施設や立地



イメージ：「自然を満喫」「木工」「山」「広くて楽しそう」「遊べる」「子ども向けで良い雰囲気」「緑がいい」「木がいい」「木の香り」「空気がきれい」「水が美味しい」「静けさ」「癒し」「のどか」

施設：「木が多くて温かい印象」「木がベースで綺麗」「道の駅っぽくはない」「居場所や滞在場所がなくせまく感じる」「各建物が何をしているかわからずつながりがない」「外で居場所がない」「さびれた」「トイレなど不便で汚い」「安全性の不安」「段差が多い」

立地：「ICから遠く不便」「車でしか来られない」「バイクや自転車での利用も多い」「近くで買い物できる道の駅ありがたい」「近くにコンビニやスーパーなど買い物するところがない」「コインランドリーがない」

●自然、木、のどかさや静けさ、癒しなどの良さが活かされていない。

●各建物の目的や運用、つながりがわかりにくく、古く危険で不便な箇所あり。

●近隣住民の日常利用など住民の利便性向上に対するニーズがある。

●敷地環境維持やイベント開催でのボランティア・住民サポートの必要性がある。

# 拠点施設の機能改善

## - 調査結果にもとづく考え方 -

ハード面

1.

拠点施設からの機能改善と有効活用

[ 全体計画 ]

対策

- 全体を繋ぐ「もくもくプラットフォーム」の設置。
- 大型遊具エリアの拡充ともくもくハウスへのアクセス確保。動物と一緒に遊べるエリアを新設。

[ 各施設の連携 ]

対策

- 樹木の剪定し見通しを確保すると同時にイベント広場の周辺に駐車スペースと歩道を設置する。
- 新たなトイレをわかりやすい位置に設置しこのトイレの機能転換を図る。
- 大型遊具エリアにユニバーサルなトイレを新設。
- もくもくハウス中央部に新たなアクセスしやすいスロープを架構する。
- 全体を繋ぐ新たなプラットフォームの設置に合わせて相互を繋ぐ施設を計画する。
- 各施設からアクセスしやすい通路を設置し、駐車場の位置を再検討。視認性を確保するための樹木の剪定。

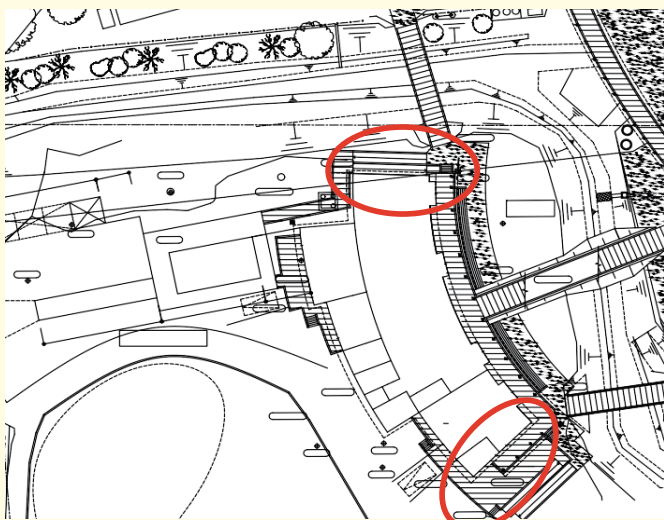


図2 既存の橋梁と嵩上げ建物との取り合い部斜路の提案図

[ 高齢者加工活動施設 ]

対策

外部：外壁及び柱の腐朽部分の取り換え補修及び塗装、屋根材の葺き替え、コーキングの更新、木製サッシの補修塗装、出入り口の段差解消のスロープ設置

内部：壁・床・天井の補修及び塗装、トイレの内装・配管・衛生機器を含めた全面改修、空調設備の更新

[ 間伐材流通合理化センター及び食品加工普及施設 ]

対策

外部：外壁及び柱の腐朽部分の取り換え補修及び塗装、屋根材の葺き替え、コーキングの更新、木製サッシの補修塗装、出入り口段差の解消のスロープ設置

内部：壁・床・天井の補修及び塗装、トイレの全面改修

[ 郷土文化保存伝習館 ]

対策

外部：屋根、外壁の部分補修、スロープの設置  
内部：内装部分補修、トイレ全面補修

[ 外部トイレ ]

対策

外部：屋根、壁の部分補修  
内部：床及びトイレブースの更新、隔壁の設置、衛生機器の更新

[ もくもくハウス ]

対策

外部：階段、デッキの追加  
内部：公園との連続性を考慮した一部平面の変更



ソフト面

2. 拠点施設からの機能改善と有効活用

[ 現在・将来をみすえた情報基盤の拡充 ]

対策

- (1) WEB サイトの刷新⇒道の駅もくもくランドとして一本化がわかりやすい WEB サイトは数年で見直す必要が求められる。再構築を視野に、道の駅機能（もくもくランドの機能説明）やもくもくハウスというショップがどんな店舗で何をおこなっているかという整理が必要。歴史、取り組み、意義、役割、機能、地域との関連、案内などを適切に行う必要がある。
- (2) WEB サイトの機能の見直し⇒情報提供と、提供コンテンツのすみわけ。
- (3) インフォメーションの充実⇒平常時の催事やイベント記事（情報）提供は、blog や Twitter とは基本切り分け。
- (4) 管理者の明確性と WEB サイトのリスクマネジメント体制構築。
- (5) WEB デザインと広報チラシ類のデザイン統一、ビジュアルブランディングの必要、(1) と合わせた情報管理の予算化、担当者の充実。
- (6) 店舗のオープン時に合わせた内容の整備（刷新を含めた検討）。

[ ニーズに対応した道の駅の機能等 ]

対策

- (1) 空育機能
  - 子どもとその親、シニア世代が木工を通して心やくらしが豊かになる事業の推進。
  - 資源循環教育、地域エネルギー活用など森林の持つ価値を教育や産業へと展開。
  - 木育マイスターなどの森林や林業、木工業などを解説する人材の育成。
  - 木工体験コーナーや教室など、遊べる・学べる場の整備。
- (2) 津山杉や矢羽の認知・愛用・革新
  - 木工品などの価値を認識するための見学体験や実演コーナーなどの検討。
  - ホームページやポスター、パンフレット、サインなど情報発信方法の検討。
  - 新たな発想も取り入れ、素材を活かした商品開発や事業の展開。

(3) ライフステージを考慮した活用

- 子どもからシニア世代、障害がある方などが移動しやすく、安全安心に配慮された施設。
- 子どもからシニア世代が利用しやすく滞在しやすい空間、参加しやすいイベントを検討。
- 子どもからシニア世代に向けた商品開発や提案を検討。
- ドライバー、バイカー、キャンパー、ペット連れなどの来訪に対応したエリアの付設。

(4) 食や食材のバージョンアップ

- 地域食材（登米市や南三陸町など）の活用や名物などの検討と発信の工夫。
- 子どもや若者、シニア世代向けのメニュー、ファーストフード（迅速さ手軽さ）の検討。
- 木工食器、家具など魅力ある空間、各ブースや地域とのつながりを発信。
- 外部客への土産品と共に、地元住民への日常の買い物に対応した品揃えや利用の検討。

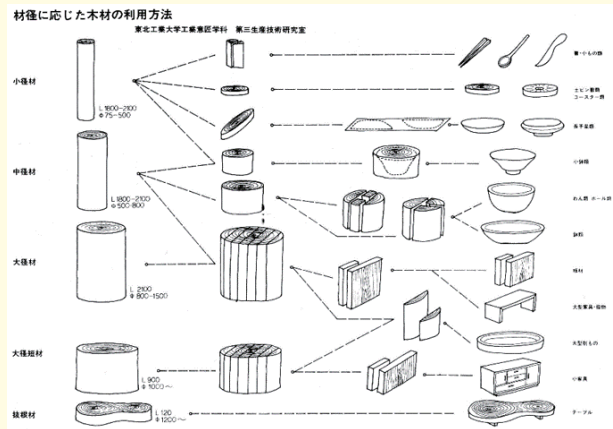


図3 木工品加工の工程の事例

[ 自然災害や人的災害に対するリスクマネジメント ]

対策

- (1) 怪我や事故などへの保証、保険加入。
- (2) 防犯カメラの屋内外設置、24 時間対応に向けた連携。
- (3) 災害時等の食料含む備蓄、緊急時二次避難にむけた周辺施設との調整や仕組み。
- (4) 拠点施設における「防犯・事故」に関する簡易点検マニュアル活用と定期研修訓練の検討。

## 目指すべき施設の将来



ひと・地域・もりを活かして  
新たな価値を生み出す「木のプラットフォーム」



登米市津山町の名産・スギの木をみつめると、ゆったりと健やかな「成長」が浮かびます。

その拠点となる「道の駅津山・もくもくランド」は、みんなの目標を叶える場所であってほしい。

地区内外の人々の声を集め、施設の現状を踏まえて、こうした想いを1つの〈トップコンセプト〉に掲げ、

それを見える化するための 3つの〈ビジョン〉、

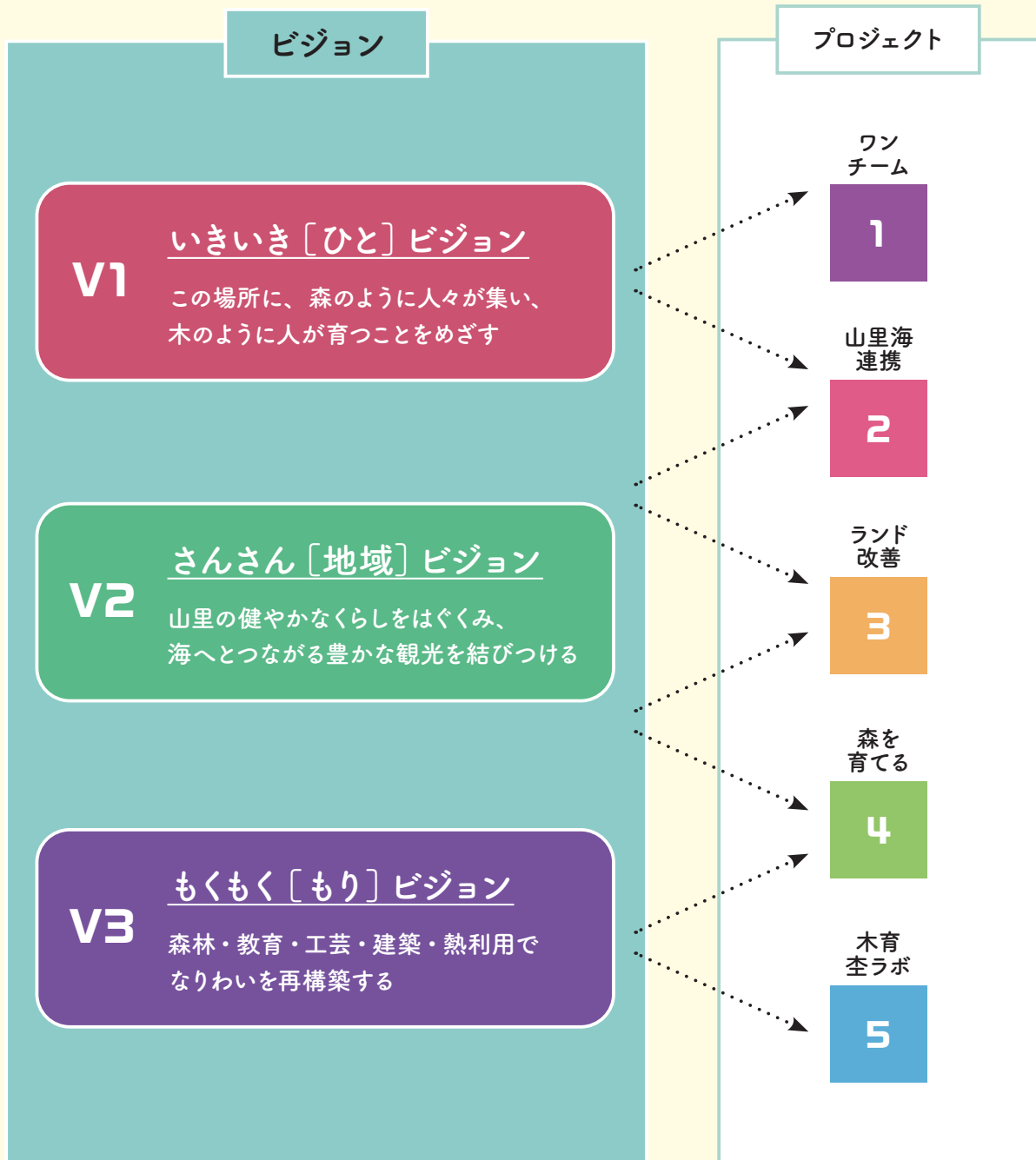
具体化するための 5つの〈プロジェクト〉、

そして、実現するための 7つの〈アクション〉 にまとめました。

## 3つのビジョン



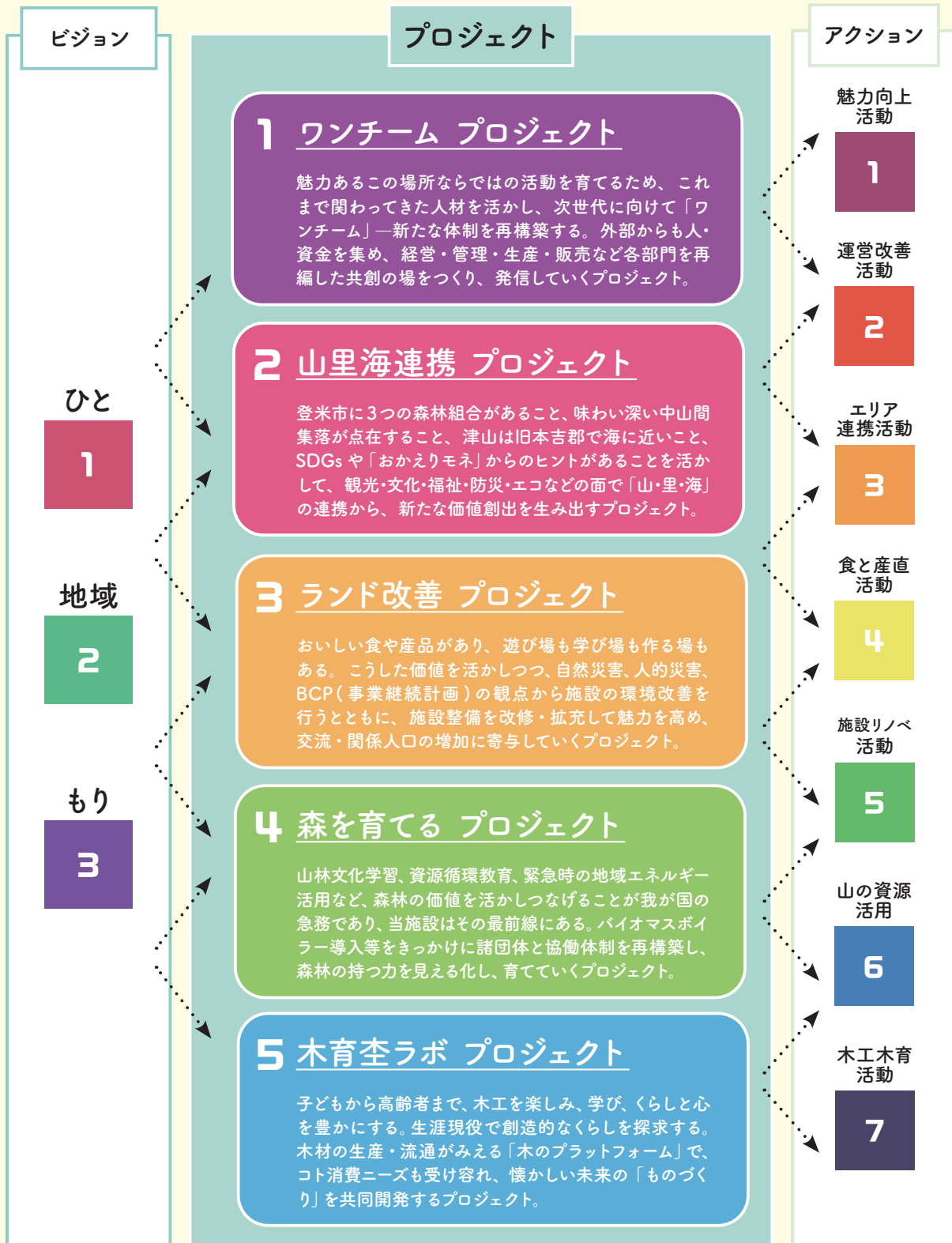
コンセプト（共通命題）を明快な目標に「見える化」するため、  
[ひと] [地域] [もり] に着目して、「3つのビジョン」を掲げます。



# 5つのプロジェクト



3つのビジョンを「具体化」するため、新たな体制づくりや周辺との連携、施設の改善、山林の育成、木工芸に着目して、「5つのプロジェクト」を立ち上げます。さらに、5つのプロジェクトを実現するため、「7つのアクション」を企画・実践します。

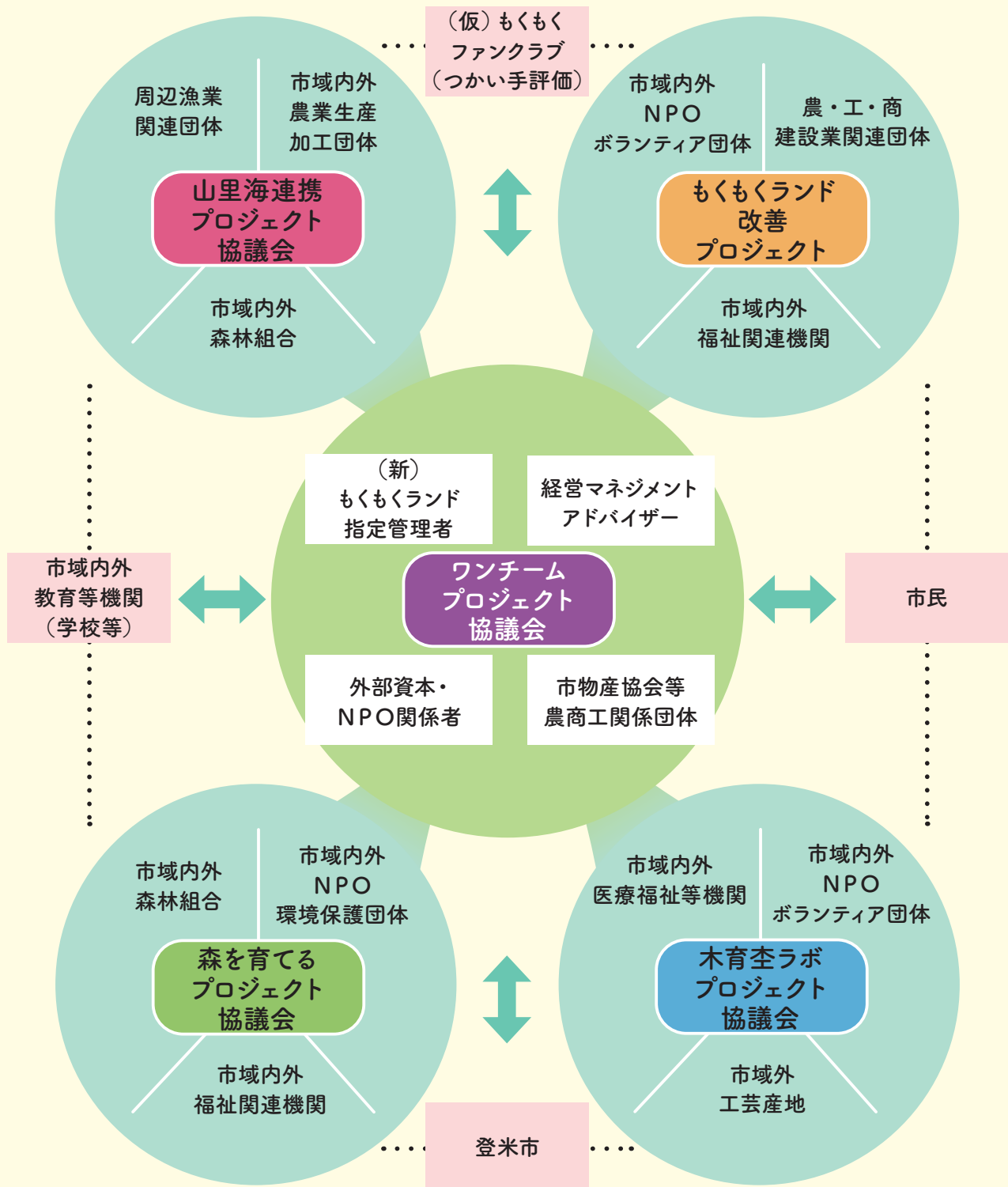


## 5つの重点プロジェクトを 推進するための体制

プロジェクトを推進するための体制構築に関しては、まず始めに運営実行中枢を担うワンチームプロジェクト協議会<sup>※1</sup>の設立が不可欠である。その後、ワンチームプロジェクト協議会の基で、4つのプロジェクト（山里海連携プロジェクト・もくもくランド改善プロジェクト・森を育てるプロジェクト・木育空ラボプロジェクト）を推進する各協議会を設立し、各プロジェクトの具現化を目指す。各プロジェクトを推進するには、ゆるやかな協議会を設置し、市域内外の多くの関連機関との連携する組織体の構築が必要である。常に動く人（動きたい人）が自主的に参画する運営体制づくりを目指すことが望ましい。尚、登米市、市民、市域内外教育機関、（仮称）もくもくファンクラブ（つかい手評価）との連携を高めつつ、各プロジェクトを実現する。

プロジェクトを推進する各協議会を設立し、各プロジェクトの具現化を目指す。各プロジェクトを推進するには、ゆるやかな協議会を設置し、市域内外の多くの関連機関との連携する組織体の構築が必要である。常に動く人（動きたい人）が自主的に参画する運営体制づくりを目指すことが望ましい。尚、登米市、市民、市域内外教育機関、（仮称）もくもくファンクラブ（つかい手評価）との連携を高めつつ、各プロジェクトを実現する。

※1 協議会名称は、部会という名称もありうる。



## 「場を活かし魅力を育てる」活動

この場を使い尽くすプログラムを組み立て、活動を発信し、  
魅力と誇りを育てていく活動・事業

### 〔課題〕

- ▶外部からみて、施設の全体像がつかみにくく、製品はあるが作る場所はない、いろいろあるが木や山の真実は学べない、といった印象がある。
- ▶矢羽や木工品の愛用者が存在する一方、ポスト矢羽の新たな木工品開発へのニーズもある。
- ▶商品も食材もあるが、商品や土産の種類がまだ少ない印象がある。
- ▶地域内でみると、食料や日用品の購入に不便で、交通の便が悪い。

### 〔方向〕

- 登米市民、利用者等、全ての人に優しく、誇れる施設となること、「価値と誇りの醸成」を目指す。
- 子どもから高齢者にとって動きやすく、安全・安心を重視した魅力ある施設となるよう、ユニバーサルデザインを心がける。
- 「おかえりモネ」等、公共放送からの恩恵を重視するだけでなく、これからの物語もつむぐような情報発信（ホームページやSNS等）の強化に努める。
- 登米市の道の駅、観光客も立ち寄る道の駅として、他企業や地域と連携した機能拡充に取り組む。

### 〔提案〕

#### 1-1) 探求利用プログラム

木工などで当施設を頻繁に使う探求型のユーザーグループの使い勝手を良くし、一定期間、施設イメージをけん引するプログラムをつくり、施設の魅力につなげていく。

#### 1-2) 日直プログラム

子どもの遊び、日々の互市、お掃除隊など、地域の老若男女が日々立ち寄り、活用・管理に参加しながら愛着と誇りをもてるプログラムをつくる。

#### 1-3) 気づきと発信プログラム

施設の改善に向けて「みんなの声」を集める方法を作り、生活者や使い手の立場に立って情報発信し、SNSと連動させる。



わたしができること、のぞむことを考えてみよう

- .....
- .....
- .....

## 「みんなで運営」活動

運営改善と多世代共創を図り、多彩な人脈を活かして  
交流促進や資本誘致をすすめる活動・事業

### 〔課題〕

- ▶運営に関わる人員が不足しており、高齢化、疲弊が目立つ。
- ▶若手人材の積極的な登用が望まれる。
- ▶業務の効率化が求められるが、日々の運営業務、対応範囲が広く、対応しきれない面がある。
- ▶敷地内の環境整備が不足しており、地域内での関係者が広がらない面がある。
- ▶地域との連携が不足しており、また地域の方でも各家庭で少子高齢化、働き手不足が深刻化している。

### 〔方向〕

- 現在の「木工」「産直」「食事処」の三者による協同組合体制を見直し、将来的にも「持続可能な運営体制の確立」を目指し、各部門を総合的に管理・運営できる新たな運営主体を、もくもくランド関係者だけでなく、市内外の知見を集めて構築する。
- 地域住民（子どもからシニア世代まで）と環境整備などの連携協力し、ファンクラブづくりやもくもくランドの利用対価（地域通貨等）を検討する。
- 施設の機能強化と津山地域の特徴を活かすため、外部資本の誘致に取り組み、開かれた会議体、運営方法を探っていく。

### 〔提案〕

#### 2-1) ワンチーム協議会

新たな運営・経営体制の構築に向けて、関係者・協力者・将来世代からなる継続的な協議会を設置し、方針を共有する。

#### 2-2) ビジネス戦略会議

協議会の主要テーマの一つとして、土産、買い物からキャンプなどの場所貸しまで、当施設を活かしたコミュニティビジネスのあり方を、マーケティング調査などを踏まえて検討する。

#### 2-3) オープン経営会議

周辺地域や民間企業など、積極的に外部の人材や資本を取り入れ、対話の多い開かれた運営・経営体制を目指す。



わたしができること、のぞむことを考えてみよう

- .....
- .....
- .....

## 「周辺エリア連携」活動

北上川流域から気仙沼まで、山里海の自然と文化を楽しむ連携企画等をすすめる活動・事業

### 〔課題〕

- ▶このエリアを総合的に楽しもうと来訪しているドライバーやバイカー、キャンパーなどのユーザーへの配慮が不足している。
- ▶このエリアで学べる自然科学、人間文化、生活技術の幅の広さが活かされておらず、住民が培ってきたこれらの総合力が伝えられていない。
- ▶地元住民を中心とした日用品購入の不便さが指摘されており、商品多様化へのニーズが指摘されている。

### 〔方向〕

- このエリアの山里海の資源を活かし、楽しむための総合的な調査、取り組みを重ねていく。
- ドライバー、バイカー、キャンパー、買い物客が多く来訪していることから、新たな対応可能なエリアも付設し、新たなユーザーの掘り起こしにつなげる。
- 観光客だけでなく、地元住民の活用も重視し、商品の多様化を促進することにより「産直の販売力向上」を図る。

### 〔提案〕

#### 3-1) 地域資源研究事業

山里海の広域エリアに散らばる地域資源や環境文化を拾い出し、トレイル・コンテンツとしての活かし方を研究する場をつくる。

#### 3-2) ハブスポット整備事業

山里海のトレイル利用者、ドライバー、バイカー、キャンパー、買い物客などのプラットフォームとなるよう、それぞれの活動のハブスポットとするための整備を行う。

#### 3-3) 山里くらしイノベーション事業

隣接地の圃場整備地を活用し、来場者参加型農園や林産物ストックヤード、アーティスト開放などを含めた新たな利用法を検討する。



わたしができること、のぞむことを考えてみよう

- .....
- .....
- .....



## 「おいしい食堂・産直」活動

レストランから食品・食材まで、味や運営方式の質向上を図り、地域の農・食を盛り上げる活動・事業

### 〔課題〕

- ▶地域食材の活用や名物グルメなどへのニーズが強いが、それらが上手くPRされていない面がある。
- ▶子どもや若者向けのメニューが不足している。
- ▶ファストフード（迅速さ手軽さ）に関するニーズも強い
- ▶産直や土産品の全体コーディネートがされておらず、町内、市内、エリアの資源を活かす必要がある。
- ▶地元向けの買い物支援は未整備で、開店時間の調整を求める声もある。

### 〔方向〕

- 一般的でない、当施設だから味わえる魅力ある食空間を提供し、食を目的とした集客を向上させる。
- 地ものと新ものを取り入れた新しい産直やレストランの魅力度アップを図る。
- 地元住民の買い物にも対応する必要があり、観光客に向けた商品構成と棲み分けながら、営業時間も含めて検討していく。
- 広域の地域資源を活かし、当エリアにおける食堂・産直に関わる動きの一拠点とする。

### 〔提案〕

#### 4-1) おかえり食堂／行ってら屋台

食材から食器、什器まで、地元素材を活かした食堂と、移動客向けにテイクアウトで出す現代型屋台（コンビニやチェーンでない）を再構成、事業化する。

#### 4-2) 広域産直互市事業

米、油麩、登米牛、ハム・ソーセージ、日本酒から隣接エリアの海産物等まで、広域の「地もの・新もの・ソウルフード」を扱う広域産直市の生産・販売ネットワークを構築して観光客に対応し、移動販売も含めて地元買い物支援にも寄与できる運営方法を探る。

#### 4-3) お土産改善事業

山里海の素材・資源を活かした食の土産物開発を強化し、もくもくハウスの食器等と組み合わせた販売も検討する。



わたしができること、のぞむことを考えてみよう

- .....
- .....
- .....

## 「施設のリノベーション」活動

新旧の施設・設備・広場を活かし、利便向上、防災・防犯、機能向上を図る様々な整備活動・事業

### 〔課題〕

- ▶災害時等への食料を含む備蓄品の確保、緊急時二次避難 周辺施設との調整や仕組みが未整備である。
- ▶各施設へのアクセスが困難で、敷地内の見通しが悪く、サイン計画や案内が不足している。
- ▶遊具の老朽化、敷地内段差、備品盗難、不審者侵入、雑木や建物の死角、工事現場灰皿から煙、捨て猫などが課題となっている。
- ▶外部トイレや木陰など滞在・交流エリアに対するニーズがあるが、不足しており、施設の建物や景観の良いところを活かせていない。

### 〔方向〕

- 現状から将来を見越したハード・ソフトのリスクマネジメントを強化する。
- 既存施設の機能転換も含めた有効活用を図り、農村公園の機能強化、既存施設や円形広場等の機能アップなど、拠点全体の機能強化を図る。
- 集客のポイントとなる外部トイレの再検証、円形広場の利活用の再検討と場づくり、利用者にとっても清潔感とわくわく感を与える設備・空間の再構築を目指す。

### 〔提案〕

#### 5-1) リスクマネジメント&リノベーション

敷地の地盤沈下を想定した施設改修と対策を行い、令和元年度東日本台風被災を教訓にした防災リスクマネジメント、日常の防犯リスクマネジメントを行いながら、施設改善を図る。

#### 5-2) 農村公園と外構整備事業

木製遊具、ペットエリア、樹木や草花を楽しむ庭、四季を通じて地域内外の催事に用いる円形広場・ウッドステージ・ボードステージなど、多世代が楽しむ外構を段階的に整備する。

#### 5-3) 見通し・サイン・トイレ整備事業

安全管理も考慮して、広い敷地内の見通しを確保し、各施設のつながりが分かるサインの設置、老若男女が安心して使用できるトイレの整備を行う。



わたしができること、のぞむことを考えてみよう

- .....
- .....
- .....

## 「<sup>やま</sup>山林の資源を活かす」活動

木質バイオマス設備を活かし、資源循環、山村あそびから地域文化まで、資源の有効活用を図る活動・事業

### 〔課題〕

- ▶高度な木質バイオマスボイラーが導入されたが、運転・利用方法を修得した人材は限られ、活かし方が必ずしも確定していない面がある。
- ▶小中学校教育の場で、農業林業や道の駅見学、木工体験などの授業が組まれているが、森林や木工業、中山間集落の暮らし・文化に関する情報がまだ不足している。
- ▶木質資源の川上から川下までの流れが見えにくい状況が続いており、林業家や製材業との連動が求められる。

### 〔方向〕

- 森林・林業・木質バイオマスの見える化を行う。
- 登米市において「森林・林業の取組が体现できる施設」として位置付ける。
- 木質バイオマスボイラーを新規整備することを契機に、エネルギー供給の役割だけでなく、SDGs（持続可能開発目標）の視点を重視する「地域資源循環・環境教育の拠点」として目指す。
- 本市の環境配慮への取り組みとして内外に発信していく。商品化や実用化への取り組みの中でも、資源循環の面を積極的に推進、発信する。

### 〔提案〕

#### 6-1) 新たな山林活用事業

森林の育成から伐採、製材・加工まで、川上から川下の生業の見える化を行い、「山村の暮らし勉強会」「アート&サイエンスハイキング」など、旧来の林業を超えた山林活用のあり方を検討する研究の場をつくり、実践する。

#### 6-2) 木質バイオマスマイスター事業

木質バイオマスボイラーを使いこなすマイスター人材を育て、来訪者解説パネルや動画を設置し、資源循環教育に活かす。

#### 6-3) エリア SDGs 連携事業

市内の各種拠点施設の取組や当施設における SDGs に関わる活動を実践、連携し、持続可能な拠点エリア・津山として域内外に発信していく。



わたしができること、のぞむことを考えてみよう

- .....
- .....
- .....

## 「新たな木工・木育」活動

木工系の新事物開発、商品化から木育の実践、教育活用まで、多世代での活性化を図る活動・事業

### 〔課題〕

- ▶矢羽や木工品の愛用者は一定数存在するが、そのストーリーや価値は十分知られていない。
- ▶木工品を製作する木工職人は現在7人で、平均年齢も約70歳と後継者の育成・確保が急務である。
- ▶木工品を子どもに使わせたいが、高価すぎるし、どのように使うか分からないこともある。
- ▶コト消費が進むなかで、新たな木工品開発へのニーズも指摘されている。

### 〔方向〕

- 本市林業・木工分野の取組を伝え、新たな需要開拓を図り、木の良さ、特徴に触れてもらうため、親子連れなどが木と触れ合え、木工品の販売や木製大型遊具などを備えた「木育拠点」を整備する。
- 木工職人の高齢化に対する若手職人の育成・確保を強化し、モデル事業を構築して、技術の継承と新たな開発研究、創作を促していく。
- 新たな発想や事業開拓のため、地域おこし協力隊制度（木工職人の後継者確保）を活用し、木工や木育に関わる活動・事業を推進していく。

### 〔提案〕

#### 7-1) 木育事業

現・物産館を「木育館」に転用し、木のオモチャで遊べるプレイ・体験コーナー、木工品や矢羽集成材の製造過程や価値を学べる場として整備する。本市新生児に市内産森林認証（FSC）材を活用した木のオモチャを贈呈するファースト・ウッド推進事業もその一つとする。

#### 7-2) 空ラボ事業

現・高齢者加工施設を「空ラボ」に転用し、地域おこし協力隊やファースト・ウッド推進事業の拠点、子どもからシニア世代まで域内外のクラフトファンを対象とする体験施設とし、協力隊員の定着化、木工職人の後継者確保につなげる。

#### 7-3) 新事物開発事業

木育・空ラボを通して、旧来の産品開発販売から、より多彩な「モノ」「コト」を価値として販売する手法を開発していく。

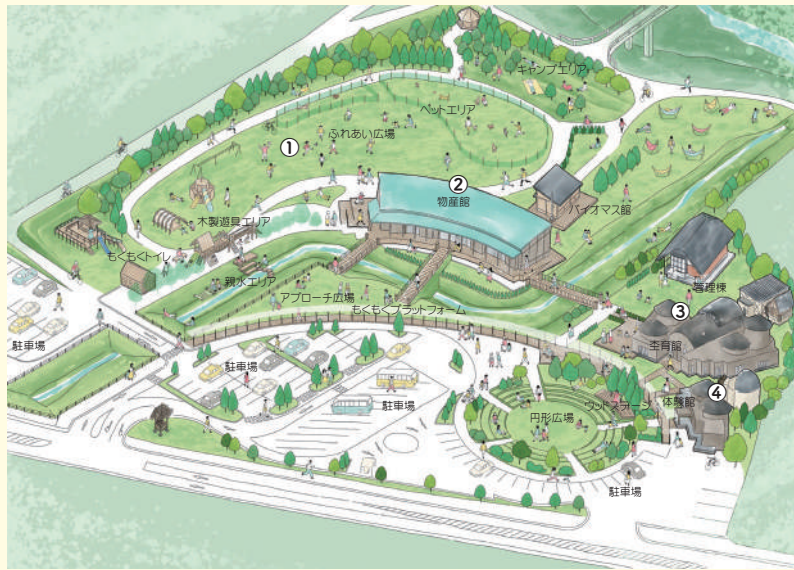


わたしができること、のぞむことを考えてみよう

- ・ .....
- ・ .....
- ・ .....

# 拠点整備の目標

## - 外部空間と各施設の提案 -



### ①外部空間

- ・「もくもくプラットホーム」を新設し、各施設と駐車場を有機的につなぐと同時にインフォメーションの役割をもたせる。
- ・「遊具エリア」を充実させ、子どもから大人まで楽しめる木の遊具及び装置を付加し、「親水エリア」や「新物産館」(旧もくもくハウス)との連携を図る。
- ・「遊具エリア」に利用者からの要求の強い「もくもくトイレ」を新設し、安全安心な遊具空間を構成する。
- ・動物と過ごせる「ペットエリア」を新設し、里山パークとしての機能を充実させる。

### ②体験館(旧:高齢者加工活動施設)

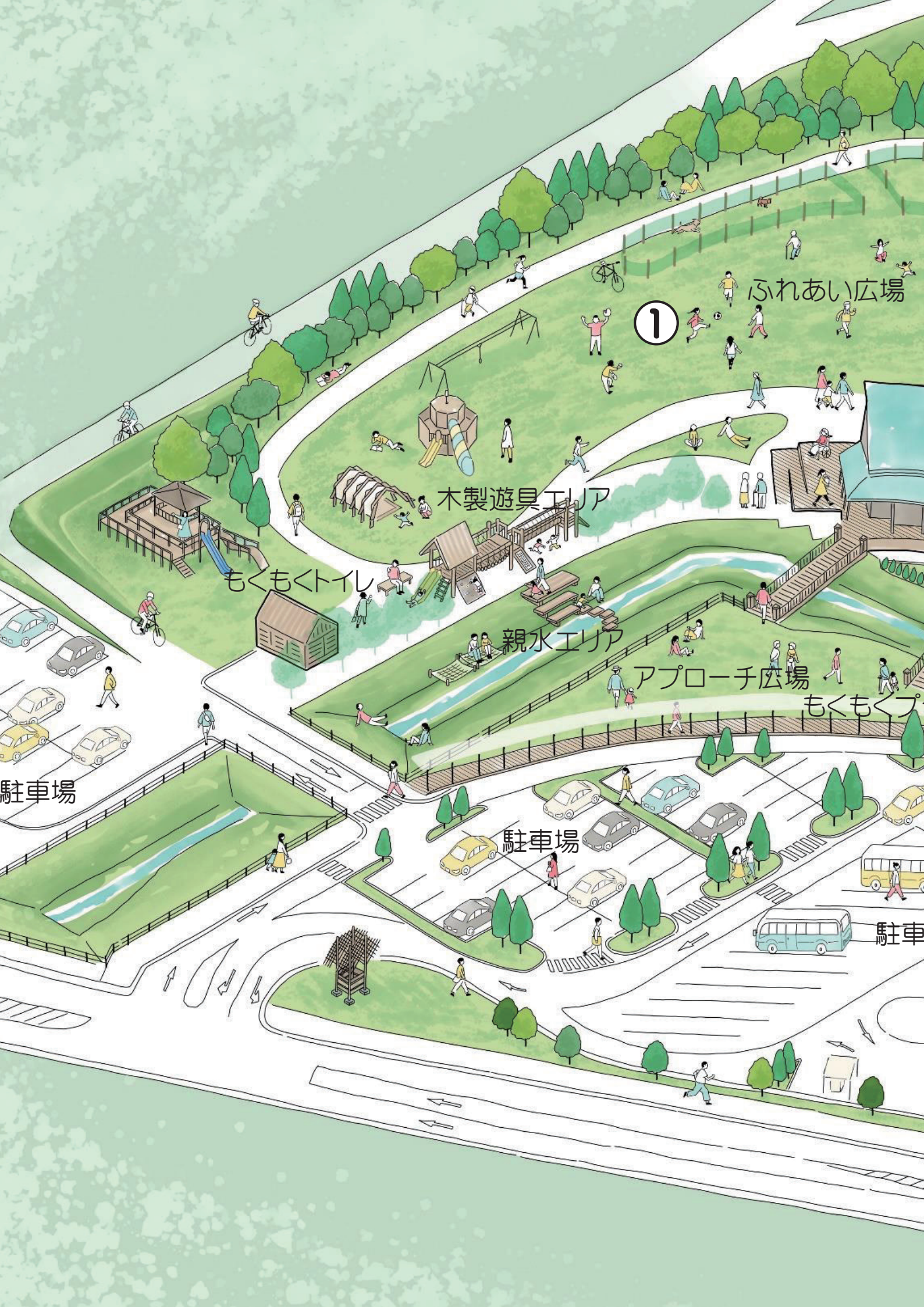
- 既存の高齢者加工活動施設を改修し、「体験館」と名称変更する。
- ・再生施設は、子どもと親・シニア世代まで木工体験等ができる施設の機能転換を図る。

### ③空育館(旧:物産館)

- 既存の間伐材流通合理化センター及び食品加工普及施設を改修し、「空育館」と名称変更する。
- ・再生する機能は、木のおもちゃを中心とする展示や実際に雨の日でも遊べるプレイルームとしての活用を図る。
  - ・食事処の機能を併せ持つ施設とするが、食事内容は登米ならではの食材や食器をふんだんに用いる「使って・食してみても購入したくなる」という物産との連動を強く謳う施策とする。

### ④物産館(旧:もくもくハウス)

- 現在嵩上げ工事中のもくもくハウスの改修後の施設名を「物産館」と名称変更する。
- ・木工品販売には、これまで示していない「木工の価格価値を知らせる情報」「生産者との対面販売コーナー」「他産地異業種との協働による生活提案コーナー」「使い手からの要望の高い商品コーナー(使い手コメント入り)」等の使い手と作り手の顔が見える、まさに消費者ではなく愛用者を持ち続ける新たな販売の構築を目指す。
  - ・農産物は、オール登米産の野菜・肉やその加工品の販売を行うと共に、隣接する南三陸等の海産物の提供を視野に入れ、地元住民からも必要と思われる品ぞろえに務める。
  - ・新設の木質バイオマスへのアクセスは、物産館内部から可能とし、アクセスエリアに見学者のための開設パネル等を設置したオリエンテーション機能付加する。
  - ・物産館の西端部コーナーは、このエリア内での背景の山並みが伺える最適空間であり、休憩機能となる外部デッキを設置し、子ども遊具や動物ふれあいコーナー等との連動を高め、来場者やペットにも優しいコーナーとする。



ふれあい広場

1

木製遊具エリア

もくもくトイレ

親水エリア

アプローチ広場

もくもくプ

駐車場

駐車場

駐車



キャンプエリア

ペットエリア

2

物産館

バイオマス館

管理棟

3

体育館

4

体験館

円形広場

ウッドデッキ

駐車場

プラットフォーム

場



## 調査・協議・策定

### 2021

- 02.01\_ 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）受託研究契約の締結
- 03.10\_ 第1回 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）会議：道の駅津山もくもくランド
- 03.26\_ 道の駅津山もくもくランド災害復旧基礎嵩上げ工事に関する調査とうちあわせ（構造計画井上氏同行）
- 04.19\_ 第2回 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）会議：zoom 会議
- 04.28\_ 道の駅津山もくもくランド復旧事業木質バイオマスボイラーに関する現地調査と打ち合わせ：道の駅津山もくもくランド / 津山総合支所
- 05.11\_ 第3回 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）会議：東北工業大学
- 06.01\_ 第4回 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）会議：東北工業大学
- 06.08\_ 構建築設計事務所と木質バイオマスボイラーとキューピクルに関する打ち合わせ：東北工業大学
- 06.15\_ 道の駅津山もくもくランド既存施設調査・駅長へのヒアリング調査・登米市産業経済部との打ち合わせ：道の駅津山もくもくランド
- 06.20\_ 体験型木育施設「花巻おもちゃ美術館」視察
- 06.22\_ 構建築設計事務所と木質バイオマスボイラーとキューピクルに関する打ち合わせ：東北工業大学
- 07.07\_ 道の駅津山もくもくランド復興・活性化構想策定事業の概要説明：登米市産業建設常任委員会 / 登米市役所
- 07.13\_ 第5回 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）会議：東北工業大学
- 08.04\_ 道の駅津山もくもくランド内施設の高低差の実測調査・利用者ヒアリング調査・周辺環境整備：道の駅津山もくもくランド
- 08.04\_ 第6回 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）会議：道の駅津山もくもくランド
- 08.19\_ 嵩上げ建物の周辺装置（スロープ・階段）うちあわせ・もくもくランド内の地盤高低差の補足調査：道の駅津山もくもくランド
- 08.28\_ 第7回 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）会議：zoom 会議
- 09.17\_ 道の駅津山もくもくランド復興・活性化構想策（素案）の概要説明：登米市産業建設常任委員会 / 登米市役所
- 09.21\_ 道の駅津山もくもくランド利用者へのヒアリング調査・駅長のヒアリング調査：道の駅津山もくもくランド
- 09.30\_ 第8回 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）会議：東北工業大学
- 10.03\_ 道の駅津山もくもくランド利用者ヒアリング調査・杉澤氏とリスクマネジメント調査・駅長のヒアリング調査：道の駅津山もくもくランド
- 10.07\_ 道の駅津山もくもくランド利用者ヒアリング調査・リスクマネジメント調査説明と依頼：道の駅津山もくもくランド
- 10.12\_ 道の駅津山もくもくランド復興・活性化構想策（素案）の概要説明：登米市産業建設常任委員会 / 登米市役所
- 10.18\_ 第9回 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）会議：zoom 会議
- 10.28\_ 登米市立津山中学校（宮内教頭）ヒアリング調査：電話
- 11.04\_ 登米市立柳津小学校（宮崎教頭）ヒアリング調査：zoom 会議
- 11.08\_ 津山町住民（キーパーソン A 氏）ヒアリング調査：電話
- 11.11\_ 登米市立横山小学校（福田教頭）ヒアリング調査：：zoom 会議
- 11.11\_ 第10回 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）会議：東北工業大学
- 11.29\_ 第11回 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）会議：zoom 会議
- 12.02\_ 第1回 意見交換 道の駅津山・もくもくランド復興活性化構想に係る従事者とのワークショップ：道の駅津山もくもくランド

### 2022

- 01.23\_ 第2回 意見交換 道の駅津山・もくもくランド復興活性化構想に係る事業関係者ワークショップ：道の駅津山もくもくランド
- 01.25\_ 第3回 意見交換 道の駅津山・もくもくランド復興活性化構想推進委員ワークショップ：津山総合支所
- 02.03\_ 第12回 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想策定（グランドデザイン策定）会議：zoom 会議
- 02.15\_ 道の駅津山もくもくランド復興・活性化構想策案の概要説明：登米市産業建設常任委員会 / 登米市役所



## グランドデザイン策定のための実施体制

### 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想推進会議委員

阿部篤雄（津山地区区長会 会長） 山崎準一郎（登米道の駅連絡協議会 会長 / 道の駅米山 駅長）  
星一敏（JA 新みやぎ津山支店 支店長） 熊谷毅（みやぎ北上商工会 会長）  
小野泰道（県東部地方振興事務所 登米地域事務所林業振興部 部長） 堀田耕平（津山地域振興会 会長）  
猪股育夫（登米市観光物産協会 会長） 高橋平克（津山町森林組合 代表理事組合長）  
佐々木好博（津山町林業研究会 会長） 千坂佳織（津山中学校 校長）  
佐藤貞光（津山公民館長） 阿部宗幸（つやま杉の子子ども園保護者会 会長） 橘康代（大徳寺）  
熊谷哲弥（(株)スカイクリーンツヤマ 専務取締役） 高瀬さな江（ユーザー 代表）  
佐々木勝彦（津山総合支所長）

### 道の駅津山もくもくランド復興活性化構想協力ビジネス関係者

伊藤秀雄（農業法人(有)伊豆沼農産 会長）  
佐藤宏（石越酒造(株) 代表取締役）  
堺健（(有)黒潮 代表取締役）

### 道の駅津山もくもくランド構成団体

西條孝一（道の駅津山 駅長） 佐々木喜市（津山木工芸品事業協同組合 理事長） 阿部隆吉（つやま産直事業協同組合 理事長）  
西城泰憲（木里口代表） 佐藤裕子（津山もくもくランド協同組合職員） 阿部奈緒（つやま産直事業協同組合職員）  
千葉美和（津山木工芸品事業協同組合職員）

### 登米市

遠藤亨（産業経済部長） 佐藤貞光（産業経済部地域ビジネス支援課 課長）  
安部保男（産業経済部地域ビジネス支援課 課長補佐）  
菅原永隆（建設部住宅都市整備課 技術主幹） 川誠司（建設部住宅都市整備課 建築係技師）

### 東北工業大学関係者

菊地良寛（特命教授） 大沼正寛（生活デザイン学科 教授） 伊藤美由紀（生活デザイン学科 准教授）  
野津弘（生活デザイン学科 建築学科 非常勤講師） 権永哲（都市マネジメント学科 准教授）  
佐藤明（地域連携センター 地域未来構築事業 コーディネーター） 菅原玲（地域連携センター 主任）  
杉澤修（リスクマネジメントアドバイザー） 庄子奈々絵（生活デザイン学科 非常勤講師） 佐々木悠里（生活デザイン学科 非常勤助手）  
池崎拓人・城島大也・横山一歩輝・高橋郁乃（学生 生活デザイン学科 4年）

